

2023年10月20日

教室マルトリートメント??

～ 私がそうしてるかもしれない～

「何のこと?」と思われた方がほとんどではないでしょうか。私もそうでした。ただ、先日の新聞記事(朝日:10月9日)にあったので、興味深く読みました。そして、今、その本を読んでいます。「なるほど・・・。」と思うことがいくつもあったので紹介します。

まず、このタイトルは「先生の不適切な言動」という意味です。教職員の体罰やわいせつ行為は法律で禁止され、厳しい処分の対象となっています。しかし、ネグレクトや心理的虐待については、法的にはほとんど規制されておらず、また、処分の対象にはなっていません。ただ、学校や園では「(してはいけない)注視すべきかわり」とされています。

そして、そこまでもいかない**教室でのネグレクトや心理的虐待に近いかわり**、つまり、先生の適切ではない発言や指導はどうでしょうか。例えば、「何回言うたらわかるんや!」とか、「やる気がないんやったら、もうせんでもええ!」などと威圧的・高圧的に迫る指導があります。また、支援が必要な子に合理的な配慮をしない。特定の子を指名しない。特定の子を支援員に『丸投げ』するなどもあります。さらに、「お父さんに言うよ。」「(小学校高学年の児童に)そんなこと1年生でもしません。」「(中学生に)小学生みたいやな。」「早よせんかったら、〇〇させへんよ。」「もう、勝手にしなさい!」などなどの発言も。

『マルトリートメント』とは、本来は「不適切な養育」という1980年代にアメリカで広まった言葉だそうです。これに「教室」をつけて、「教員による不適切な指導」という『造語』を提案したのは東京の養護学校の先生:川上康則さんです。学校(園)で先生が「知らず知らずのうちに」、あるいは「正しい指導であると錯覚して」適切でない発言や指導をして子どもの心を傷つけ、追い込んでしまっている実態を研究してこられました。言うことを聞かない子を恫喝(どうかつ)する。怒鳴り声を上げる。職員室で子どもを嘲笑する。保護者さんの子育てを揶揄(やゆ)する。・・・みなさんの学校や園で、こういう場面はなかったでしょうか?

こうしたかわりは、子どもたちの自尊感情の育成に逆行し、また、自主性を大きく阻害すると言われています。(先生に怒られるのが怖いので、自分からいろんなことに挑戦しようとはせず、指示待ちの子が増えるとも。)さらに、いじめや不登校にもつながっていきます。教室で子どもたちは先生の雰囲気を感じ取ります。担任が「ちゃんとできない子」への指導や叱責(しっせき)を繰り返す、ため息をつく姿を見せるうち、子どもたちがルールから逸脱する子を問題視するようになります。そして、枠からはみ出す子を排除する教室の雰囲気ができ、そうした「空気」がいじめや不登校へとつながっていくのです。

この書籍は『教室マルトリートメント』というタイトルです。著者は、川上康則さん(東京都立矢口特別支援学校主任教諭)。東洋館出版社(2022年4月初版発行)、約300ページの本です。